

2017年度 年次報告書

2017年4月1日～2018年3月31日



ネパール・UMNタンセン病院で看護・助産師として働く元JOCS奨学生

mtc
JOCS

医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書 13 章 34 節

日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS) は、日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願って1960年に設立されました。

1958年、日本人が、まだ国際社会では友人と認められていない時代だったにもかかわらず、アジアの方々から共に生きる仲間に加わるようにとの呼びかけがなされました。「東アジアキリスト教医療従事者会議」の企画委員会に日野原重明氏 (JOCS初代理事) が招待され、次いで開催された会議に日本からクリスチャン医療従事者の代表4人が参加し、「途上国の医療従事者を日本に招き研修の機会を提供する」という提案をしました。これがJOCS発足のきっかけとなりました。

フィリピンから1人の医師を日本に招いたことから始まった奨学金事業は、次第に、現地の教育機関での保健医療の学びを支援する事業へと変化していきました。これまでに619人がJOCSの奨学金で学びました。「お支えくださった日本の皆さんに、直接お会いしてお礼を伝えることができず残念ですが、この感謝の気持ちを日々の看護の仕事にこめて、患者さんに仕えていきます。」元奨学生から届いた手紙です。

国と国との関係が難しいときでも、市民と市民の間では友情を築くことができると、私たちは活動の中で学んできました。世界で分断や排外主義の動きが強まる中、JOCSは、国や宗教の違いをこえて共に生きる働きを通じて、「平和を実現するもの」であり続けたいと願っています。

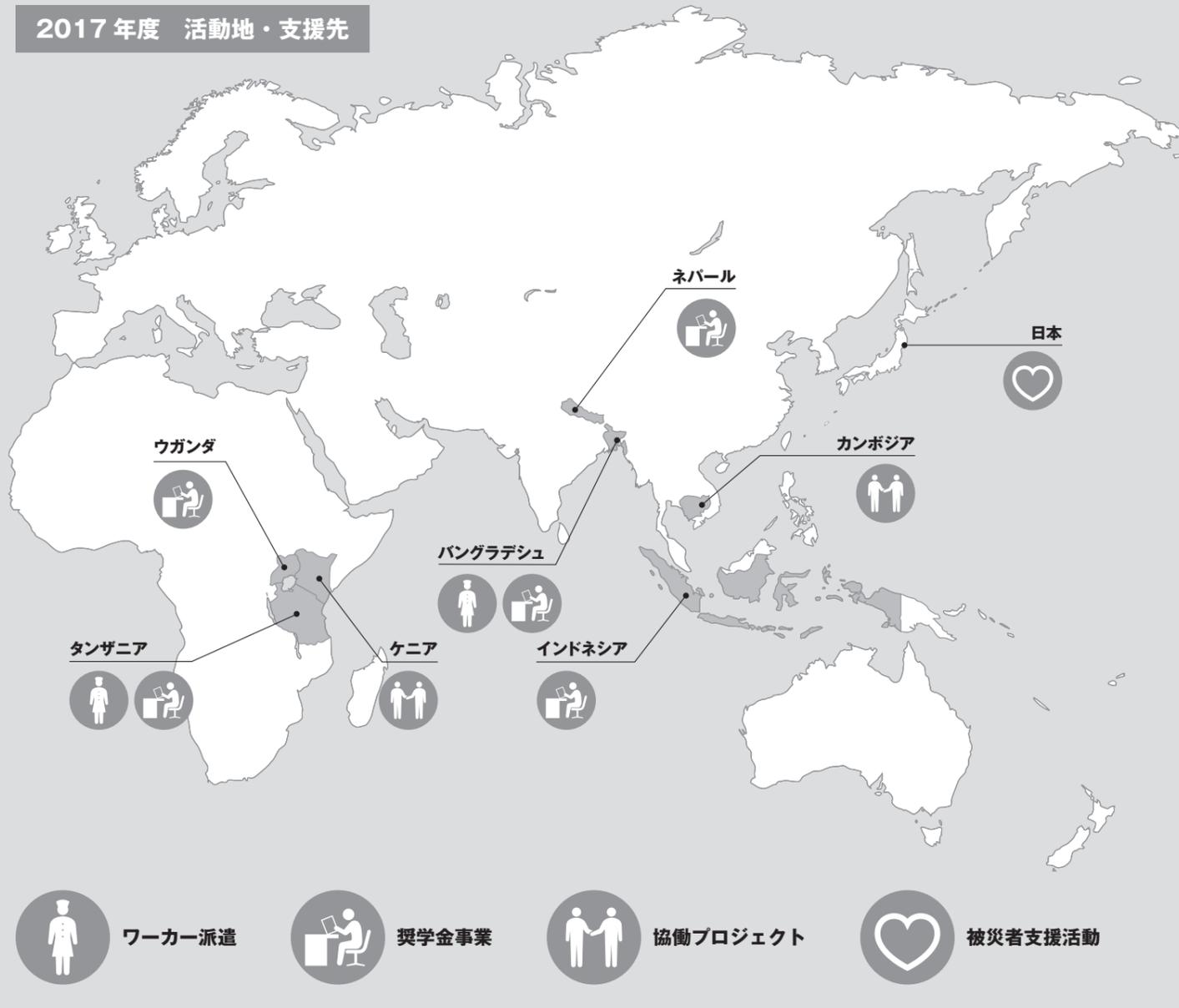
入院患者のケアをする、JOCS 奨学金で看護師になった女性 (ネパール)

※ 2018年3月末時点での研修修了者数

JOCSとは

JOCSは、キリストの愛の精神に基づき、アジア・アフリカの国々への保健医療従事者の派遣や奨学金事業、現地団体との協働プロジェクトを通じて、保健医療協力を行っています。
1960年の創立以来、70人を越える保健医療従事者を派遣し、600人以上への奨学金支援を行ってきました。
JOCSは、すべての人々の健康といのちがまもられる世界を目指しています。

2017年度 活動地・支援先



ごあいさつ



はたの けんたろう
医師。1977年長崎大学医学部卒業。
1985年から1994年、JOCSワーカーとしてバングラデシュ・チッタゴン丘陵の少数民族居住地区にあるチャンドラゴーナ・キリスト教病院に赴任し、ハンセン病プログラムに取り組んだ。2009年から2014年、国立療養所邑久光明園園長。2015年からJOCS会長。

常に新しい歩みを

年とともに、ますます時間が早く進んでいくようになった、そんな気がいたします。単に私が年をとったからというのではなく、社会の変化が激しくなり、時代を進める流れが早まっていると感じるのです。そんな中でJOCSは、皆様のお支えと上からのお恵みによって、無事に2017年度の活動を終えました。

無事ということの最大の感謝は、ワーカーも事務局員も関係者たちも、安全が守られてきたという点にあります。毎朝の、「ワーカーや海外で働く協力者の方々の安全が守られ、良き働きを続けることができますように」との祈りがきかれていることへの感謝です。

感謝はそれだけではありません。ワーカーも、奨学生・元奨学生も、協働プロジェクトの協力団体の方々も、それぞれに貧しく困難な中で生活しておられる方々と「共に生きてくださっている」ことを、今年も実感することができたからです。その働きを通して、働きを支える私たちもこれらの方々と「共に生きる」恵みにあずかることができているという感謝です。

もうひとつの感謝は、会員・寄付協力者の皆様への感謝です。JOCSは、一時は毎年3,000万円近くの赤字を出しておりました。このままでは資金の枯渇する日も遠くないと思える状態でした。そして資金が枯渇しますと、私たちの祈りを具体的な働きとしてあらわすことが難しくなる、少なくとも非常に縮小せざるをえなくなる、と心を痛めてまいりました。しかし、この3年間、皆様の熱心なお支えにより、この状態から抜け出すことができている。それはJOCSの持続可能性を取りもどすことができ、世界の人々と共に「みんなで生きる」世界を創る働きに参加し続けることができるということです。感謝です。

このように、ようやく足元を固めることができた私たちは、これから新しい歩みをはじめたいと願っています。新しいワーカー候補者も与えられましたし、これからも与えられるように祈りつづけます。困難と危険のなかに兄弟姉妹を送り出すのですから、一気に人数を増やすことは難しいかもしれませんが、祈り続けたいと思います。また、現在派遣中の岩本直美ワーカー、山内章子ワーカーの働きを支え、帰国した弓野綾ワーカー、また奨学生・元奨学生の働き、協働プロジェクトを通して現地の人々の様子をご紹介します。ありがとうございます。

JOCSは、「みんなで生きる」世界を目指して、世界中の方々と手をつないで歩んでまいります。真の平和を創り出すために。

共に歩んでくださる皆様のいっそうのご支援とお祈りをお願いいたします。

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協会

会長 畑野 研太郎

目次 CONTENTS

JOCSの思い	2	協働プロジェクト(プロジェクト・リとる)	12
2017年度 活動地・支援先	4	被災者支援活動(日本)	14
ごあいさつ	5	国際保健人材育成	15
JOCSのこの1年	6	支援のかたち/国内活動	16
ワーカー派遣	8	2017年度会計報告	18
奨学金事業	10	支援方法/会員数・役員	20

JOCSの この1年

3年
ぶり!

インドネシア奨学金事業の モニタリング実施

現地を訪問し、元奨学生の研修後の働きを確認したり、元奨学生や奨学金担当者と話をしていただくことで、現地の状況の把握や奨学金事業の成果の確認を行いました。



元奨学生たち
(インドネシア)

チャリティ映画会 『母 小林多喜二の母の物語』 開催 (東京)

275名がご来場くださいました。

初めて東京・^{さんや}山谷でフィールドセミナー実施

関西JOCSのつどい開催 「タンザニアで 出会った涙と笑い」

弓野綾ワーカーの活動報告会と関西学院聖歌隊コンサートを開催しました。約140名がご来場くださいました。

バングラデシュ ラルシュの家が完成!

ラルシュ・コミュニティに、新しい家が完成しました。これで、障がいのあるコア・メンバーたちが安心して暮らせるようになりました。



新しく完成した家

ネパール奨学金事業のモニタリング実施

現地の政治情勢や地震などのため、再三計画しながらも実現できなかったネパールでのモニタリングを、今年ようやく実施できました。5年ぶりに訪問したネパールで、JOCSの奨学金で学んだ方々の活躍の様子を目の当たりにしました



元奨学生たち (ネパール)

看護チーム最後の釜石訪問。 6年半の活動終了

東日本大震災の発生以来続けてきた看護チームの派遣活動を、11月で終了しました。

関西JOCSのつどい開催

「苦しんでいる人を、放ってはおけない
～マザー・テレサに学ぶ奉仕の心」

カトリック宇部教会の片柳弘史神父の講演と、植松功JOCS理事によるテゼの歌と祈りのひとときを持ちました。300名を超える方がご来場くださいました。

弓野綾ワーカーが 任期を終え無事帰国

2017年

5月
May

8月
August

9月
September

10月
October

11月
November

1月
January

2月
February

3月
March

活動紹介DVD完成! 『アサンテサーナ タンザニアにまかれた種』

JOCSがタンザニアで活動を始めてから10年。ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトの3活動が連携し、大きな成果を生み出している様子を、現地の方々の声を通して描きました。



元奨学生の
看護・助産師
(タンザニア)

タンザニアスタディツアー 2年連続満員御礼!

JOCS活動地を訪問するツアーに、医師や看護師、保健医療系の学生など11名が参加し、病院の視察や活動体験などを行いました。現地の教会で皆で歌ったスワヒリ語の『幸せなら手をたたこう』や『かえるの歌』は、タンザニアの人々に好評でした。



患者の血圧を測るツアー
参加者

JOCS初のクラウドファンディングに 挑戦、目標額達成!

ケニアで行っているシロアムプロジェクトに理学療法士を派遣するため、クラウドファンディングを利用してご寄付を募りました。その結果、目標額を超える56万4千円が集まりました。ご協力ありがとうございました。



協力団体シロアムの
園の理学療法士

「ウガンダ保健大臣が民間人に扮し、 公立病院の不正現場を暴いた」 というニュースが飛び込む

JOCS奨学生たちが指摘する「^{いろいろ}賄賂を迫られるため、貧しい人たちは公的機関の医療サービスを受けられない」ことを裏付けるニュースがありました。JOCS奨学金の意義を改めて実感したニュースでした。

聖アンナ・ミッション病院 (タンザニア) の 慢性疾患外来に登録した患者数が 500人を突破

弓野綾ワーカーと病院スタッフの働きにより、より多くの患者さんが、質の良い慢性疾患の治療を受けられるようになりました。



慢性疾患外来での診察の様子

山内章子ワーカーをケニアに3週間派遣

JOCSの活動が国を越えて結びつきました!
バングラデシュで活動する理学療法士の山内ワーカーを、協働プロジェクトを実施しているケニアに派遣し、現地の理学療法士への指導を行いました。この派遣は、9月に実施したクラウドファンディングで募ったご寄付で実施されました。





アジア・アフリカの 地域の人々と共に歩む

ワーカー派遣

2017年度はバングラデシュに2名、タンザニアに1名のワーカーを派遣しました。

派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々と共に、苦悩や喜びを分かち合いながら、健康といのちをまもるために活動し、任期終了後も派遣先団体や地域の人々によって活動が引き継がれていくことを目標としています。

ワーカーは、弱い立場におかれた人々と共に歩みたいというJOCSの思いを、具現化する存在です。

バングラデシュ | 山内章子（理学療法士）

活動の背景・目的

第3期の活動を継続しました。今期は、マイメンシンの障がい者コミュニティセンター（PCC）を主な拠点として、①現地の理学療法技術者の育成、②障がいのある女性たちの尊厳と生きる力の回復を目指しています。

活動成果

山内ワーカーの指導によりPCCでは理学療法スタッフ5名が育ち、彼らだけで理学療法外来や巡回セラピーができるようになりました。基礎研修カリキュラムや教材が整備され、実践用の評価用紙も定着しています。また女性クラブでの収入向上活動や家庭訪問を支え、差別や貧困にあえぐ障がいのある女性たちを力づけてきました。

新しい命を歩みだした女性たちに寄り添って

PCCの活動のひとつである女性クラブは、弱い立場におかれた障がいのある女性を探し出し、彼女たちが生きる価値を再発見できるようにと、障がいのある女性当事者たちによって2000年に設立されました。現在は103名のメンバーが励みあいながら、心身のケアと、収入を得るための活動を行っています。代表のタフミナさんは言います。「私自身も含めて、女性の立場はこの国では十分に認められておらず、障がいのある女性は言葉にするのはばかられるような恥辱や痛みを受けています。だから私たちは毎月集まって、痛みを分かち合い、支えあうのです。また障がいがあってもできる仕事を探し、収入を得て自立できるよう活動しています。価値がないと思っていた自分たち自身に価値を見出し、周りの認識が変わることで新しい命を歩むことができるのです」。

私は、女性たちの思いに寄り添い、活動全般の相談にのりながら、理学療法担当レハナさんを指導したり、タフミナさんと共に女性たちの家庭を訪問したりしています。レハナさんは、理学療法と同時に、傷ついた女性たちとのかかわり方も熱心に学んでいます。（山内章子）



山内ワーカーと、女性クラブのメンバーのドリーさん



左) 女性クラブ代表のタフミナさん
右) 山内ワーカーと女性クラブ理学療法担当レハナさん(右)。レハナさんは「自分の目標は第二の章子になること」と目を輝かせています。

バングラデシュ | 岩本直美（看護師）

活動の背景・目的

ラルシュ・マイメンシン・コミュニティは、知的な障がいのある人（コア・メンバー）と障がいのない人（アシスタント）が共に暮らす共同体です。第6期目の活動を行っている岩本ワーカーは、共同体が地域に受け容れられ、現地の人々により運営されることを目指して、人材育成と人の輪づくりに取り組んでいます。

活動成果

新しい家（ショップノール・夢の家の意味）が完成し、国内外の支援者・関係者を交えて開所を祝いました。コア・メンバー10名により障がい者手帳が交付され、年金の受給が始まりました。またアシスタント5名を採用し、人手不足も解消しました。地元での寄付集めや政府との関係強化、アシスタントの処遇改善も進んでいます。

ショヘル

ラルシュに暮らす30代のショヘルは、時々怒りを爆発させる。車椅子の移動が常で、家では膝を曲げたままズリズリと移動する。理解力に富み非常にナイーブな男性で、打ち明けたいことは多くあるが障がいのために言葉が思うように出せない。彼の心の中には家族に「捨てられた」ことへの深い痛みと怒りがある。彼の故郷ボリシャルを一度訪問しようと促すが、「それだったら自分を道端に捨ててくれ!」と叫ぶばかり。

先日大爆発を起こした後、きまり悪そうな顔のショ

ヘルとお茶を飲む。「ショヘルさん、あなたのお母さんは癌で死んだんでしょ?お母さんにかわいがってもらったこと覚えてる?お母さんと暮らした村、覚えてるでしょ?もう一度だけ訪ねたいと思わない?」しばらくの沈黙の後、ショヘルがうめくように言った。「墓参りがしたい」。ショヘルの10年目の決心だった。

(岩本直美)



イスラム教のお祭りに参加するショヘル(中央)

タンザニア | 弓野綾（医師）

活動の背景・目的

タンザニア・タボラ州では、炭水化物中心の食習慣や生活習慣の変化によって糖尿病や高血圧などの慢性疾患患者が増えています。弓野ワーカーは、慢性疾患の治療を適切に受けられる患者が増えることを目指して活動し、2018年3月、任期を終え帰国しました。

活動成果

慢性疾患外来を立ち上げ、診療と健康教室を行いました。はじめは週1回、4名ほどだった患者も、登録者が500名を超え、外来日には毎回40名程度の患者が診察にくるようになりました。弓野ワーカーは日々の診療や、作成した診療手引き、心電図勉強会を通じて、現地のスタッフへの技術移転を行いました。また、患者が継続して治療を受けるための仕組みづくりや健康教室の開催方法も現地に伝えました。

病気だけでなくその背景も、継続的に、全体的に

レハマさんは、教師として働く50代の女性です。より良い教育を行うため、大学で勉強もしています。仕事・学業・家庭の両立で忙しかった2年前、突然ふらつきと体のしびれと冷たさを感じて入院し、高血圧と一時的な脳梗塞の疑いがあると言われました。退院後も残った症状に不安になり、私の外来を紹介されて受診しました。彼女の心配をよく聞き薬を調節したところ、血圧は安定して症状も減りました。その後、彼女は慢性疾患外来に毎月通院しています。普段は元気ですが、大きなストレスがかかるとうと血圧が不安定になり、涙もろくなり、頻繁に受診

して薬を変えることを望みます。何が不安でどんな症状がつかいかを聞いて対応することが、全体の状態の安定に役立つと感じます。私の後任のタンザニア人医師にも、この点に注意すると状態が落ち着きやすくと、レハマさんも交えて話を引き継ぎました。血圧だけでなく、その背景にある患者さんの気持ちや状況も診る姿勢が、今後も現地で引き継がれると良いと思います。

(弓野綾)



弓野ワーカーの診察を受けるレハマさん



奨学金事業

将来を担う人材を育てる

～保健医療従事者の育成と能力強化のために～

アジア・アフリカの国々には、人々が保健医療サービスを受けにくい地域が多くあります。JOCSでは、そのような地域で働く保健医療従事者に、奨学金による支援を通して研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。選考の際には、研修後にその地域にとどまり、その地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。

2017年度 奨学生の数 53人



保健医療従事者として、地域の人々のために活動する元奨学生たち



左・中) インドネシアの元奨学生 右) タンザニアの元奨学生



栄養リハビリテーションセンターに入院中の人たちと。右から2人目がバルバティさん

弱い立場におかれた女性と子どものために。

ネパール UMN (United Mission to Nepal) タンセン病院 バルバティ・ゴータムさん (看護師・地域医療チームリーダー)

私は15年以上UMNタンセン病院で看護師として働いています。私はヒンドゥー教徒ですが、このキリスト教病院の、最も小さく弱い人たちに寄り添うという働きに共感し、都市部の病院からここに移りました。タンセン病院では手遅れになってから病院に来る人たちが多く、そのほとんどが女性と子どもです。そのため、病院に来ることが難しい女性と子どもたちのために働きたいと思い、病院内の地域医療チームに入りました。

地域医療チームは、周囲に保健医療施設のない地域を定期的に訪問します。最も遠い所は歩いて2日ほどかかります。この活動に参加するようになり、病棟での仕事とは違った知識や技術が必要だと感じました。それまで地域医療について学んだことがなかったため自分の知識に限界を感じ、JOCSの奨学金で地域医療看護を学びました。この研修のおかげで、とても多くのことができるようになりました。その後地域医療チームの看護師リーダーになり、10年が経ちます。

現在、地域医療チームは訪問以外にも多くの活動を行っています。その1つが栄養リハビリテーションセンターです。栄養失調で入院した子どもとその母親は、退院後しばらくこのセンターで過ごします。センターでは、子どもには1日6回、母親には3回食事が提供されます。またセンターには母親向けの授業があり、ここでは栄養や調理、衛生、病気の

予防方法などを教えています。子どもが下痢をしたらきれいな水に砂糖と塩を溶かしたものを飲ませること、豆を与えるときは柔らかくつぶしたものを与えること、バランスの良い食事をとる必要があることなどを学びます。日常手に入る食材を使って、より栄養価の高い食事を作るための料理教室もあります。とても基本的な内容だと思われるかもしれませんが、それを知らない母親が多いのです。入院中は毎日子どもの摂取カロリーと体重を記録し、体重が一定期間安定して増加していることが確認されれば退院となります。退院時、センターは、豆や小麦粉、油などを支給します。栄養失調で入院する子どもの母親の中には、軽い知的障がいや心の問題を抱えている人も少なくないため、センターでは子どもの体重と併せて、母親の様子もよく観察しています。

交通手段や道路事情が改善されてきたため、病院に来られる人たちが増え、地域医療チームの活動は変化してきました。しかし、女性と子どもが病院に来ることが遅れる傾向はまだ変わりません。また、出稼ぎに行く人が増え、女性が家に残る家庭が増えたころから、精神的な問題を抱える女性たちが増えてきました。今後も社会の変化にあわせながら、社会で弱く小さくされている人たちのために働いていきたいと思っています。どうぞ女性と子どもたちのために祈りください。



現地の力を活かした協力の形

協働プロジェクト
(プロジェクト・リト)

現地の人々や団体と話し合って活動の目標と内容を決め、協力して保健医療活動を行っています。2017年度は、カンボジアとケニアでのプロジェクトを継続しました。

ケニア | シロアムプロジェクト

協力団体

コイノニア・ミニストリー シロアムの園

支援対象者

シロアムの園に登録された身体・知的・精神・認知などの発達の問題を抱えた子どもたち（2018年3月時点で72名）とその家族

活動の背景・目的

障がいのある子どものための医療・教育施設が不足するケニアで、シロアムの園は、障がいのある子どもや家族をありのままに受け入れ、包括的・全人的なケアを提供することを目指しています。シロアムの園の療育事業の活動基盤を整えるため、療育カリキュラムや教材づくり、スタッフの育成、セラピーの記録整備などを2016年から5年間の計画で支援しています。



理学療法の様子

ケニアの子どもたちに最善のセラピーを

シロアムの園 作業療法士 バシリサ・ナフラ・ワマルワさん

ケニアでは障がいのある子どもや親への差別があります。特に地方では、障がいがあることに対して「悪霊につかわれている」「親の悪行のせいだ」などの偏見も残っています。私は子どもたちのために何が出来るだろう、人々の認識を変えるにはどうしたらいいだろう、と考えていました。大学で学んだ作業療法はマッサージの域を出ないもので、「セラピスト(療法士)」のあり方に疑問を感じていたとき、シロアムの園に出会いました。

重症心身障がい児の子どもをどう改善できるか、私は頭で考えていました。高い施術台で子どもに接するのが当たり前だった当時、床にマットをひいて施術するように言われた初日のショックをよく覚えています。床では子どもがむやみに泣かず、心を開いてくれることに、私もその子の親も驚きました。ここに来る子どもの多くは最初は表情がありません。でも一緒に遊び、触れ合ううちに豊かな表情が出てきます。歩き始めるという身体的な改善だ

けでなく、一瞬の表情や泣くのも笑うのも大きな前進だと気づきました。言葉を越えたコミュニケーションがあり、セラピーの意味がわかってきました。



バシリサさんと、シロアムの園に通うレイウくん

カンボジア | SALT プロジェクト

※ SALT=Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey (クメール語で「次世代のための健康と衛生」)



左上) クダオン小学校校庭 左下) ドンボックボン小学校での授業風景 右) バックローテ小学校で学ぶ6年生の生徒

協力団体

バタンバン司教区ヘルスセンター

支援対象者

バタンバン州内の16小学校(6年生)および8中学校の高学年(中学2~3年生)

活動の背景・目的

バタンバン州の農村地帯の子どもたちの多くは、感染症、栄養失調等の健康リスクにさらされています。またタイ国境に近く、商業やカジノ等も盛んな土地柄、性的搾取の標的にもなっています。子どもたちの健康を守るため、JOCSはバタンバン司教区ヘルスセンターと連携し、2014年から5年間の計画で約24校の小・中学校で健康教育、思春期教育を行っています。



クダオン小学校のサムナン校長

健康教育が日常に活かされることを目指して

著しい経済発展をとげるカンボジアですが、地方には水道のない学校や家庭もまだ多く、経済発展とは無縁の人々も多くいます。2017年10月から4年目に入ったSALTプロジェクトは、特に貧しい地域の子どもたちに目を留めて活動を行ってきました。

小学校では字が読めない児童も多く、イラスト投影やパネルを使うなどの工夫をしながら、これまでに延べ750名以上に栄養や衛生の知識、感染症の予防と対処法、洗髪、歯磨き等の生活習慣を伝えました。学んだことを実践しているか確認するために家庭訪問もしています。また中学校では性差理解、生殖機能、性感染症予防などの思春期教育を延べ730名に行いました。

クダオン小学校のサムナン校長先生は村の現状をこう話してくれました。「村人たちの協力でできたこの学校では、授業は午前中のみです。授業が終わると子どもたちは飛ぶように家に帰ります。親の多くは隣国のタイに出稼ぎに行っているため、子どもの大半は祖父母と暮らし、家事や畑仕事、弟妹の世話を担います。疲れて授業中にあくびをする子もいますが、彼らなりにがんばっています。小学校は卒業させても、中学半ばで仕事につかせる親が多いです。ですから小学校での学びは貴重です。健康教育が始まってから、子どもたちは自ら健康を気にかけるようになり、親たちもそれを喜んでます。」



被災者支援活動

被災地の人々に寄り添う

2011年3月の東日本大震災以降、各地の支援団体と連携し、それぞれの地域のニーズに合わせた活動を行ってきました。東日本大震災被災者支援のために皆様からいただいたご寄付によるJOCSの被災地での活動は、2017年度の活動をもって終了いたしました。

福島県内児童養護施設

【活動の背景】

福島県内の児童養護施設には、様々な事情から親元に帰ることのできない子どもが生活しています。原子力発電所の事故による低線量被ばくの長期的な影響は未知数です。将来の健康被害を防ぐため、最大限の予防を図るとともに、検査を継続して受ける必要があると考えました。

【活動の内容】

特定非営利活動法人「福島県の児童養護施設の子

どもの健康を考える会」をパートナー団体として、2012年10月から福島市の児童養護施設で子どもたちと職員の個人被ばく線量測定を支援しました。6年間継続した測定により、外部被ばくの実態把握ができました。測定開始当初は、職員が子どもの線量を意識することで、一緒に生活する子どもの被ばく量を低減させる効果があり、原発事故から7年たつて測定値が下がってきた現在は、被ばく量が低いことを確認でき、安心を得ることができました。

岩手県釜石市

【活動の背景】

震災から7年が経ちましたが、被災地では復興への焦りや不安、避難生活の長期化による疲れやストレス、復興住宅など新しい環境になじめないなどの理由から、心身の不調を訴える人が今も多くいます。

【活動の内容】

看護チームが仮設住宅や復興住宅などを訪問し、傾聴や健康相談などの活動を継続しました。また、

特定非営利活動法人カリタス釜石が釜石市社会福祉協議会と協力して実施しているお茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている交流の場）への協力も行いました。2017年度は計5回、延べ17人が活動に参加し、家族や健康の問題など身近な人には話しにくいような内容について看護チームが耳を傾けることで、被災地の人たちの支えになりました。

今後は遠くの親戚として関わっていきたいと思います

看護チームの訪問は、この6年半で32回継続してきました。この訪問を通して多くの方々にお会いすることができました。あるアルコール依存症だった男性は、私たちがずっと関わってきた方ですが、仮設住宅入居後は一滴もお酒を飲んでいらっしゃいません。でも、この6年半の間に、私たちが訪問していた家の方々が、病気や事故で4人も亡くなられました。復興住宅はまだ建設途

中です。津波の被害の大きかった地区はやっとかさ上げが終わり、復興住宅建設はこれからです。2017年度でJOCS看護チームの活動は終了しますが、今後は遠くの「親戚」として関わっていきたいと思います。6年半もの長い間支援活動ができたのは、JOCSの支援者の方々のおかげです。とても感謝しています。

看護チームリーダー 山本貞子さん（看護師）

国際保健人材育成

◆国際保健医療勉強会

2017年7月21日（東京）、27日（大阪）

＜事例研究＞シロアム協働プロジェクト～ケニアの障がい児を取り囲む状況と作業療法士の活動
講師：公文和子医師（シロアムの園代表）、バシリサ・ナフラワマルワ作業療法士

2017年10月13日

＜事例研究＞シロアム協働プロジェクト～ケニアの障がい児への療育支援
講師：原田真帆 JOCS 短期専門家

2018年1月19日

＜事例研究＞障がいのある人を取り囲む環境と理学療法士の育成について～バングラデシュとケニアの事例より
講師：山内章子ワーカー（バングラデシュ派遣・理学療法士）

2018年3月9日

国際協力とプロジェクトマネジメント
講師：森田隆 JOCS 事務局長

参加者の感想

看護を勉強していますが、療育支援での国際協力について興味があり、参加しました。具体的な活動を知ることができ、実際に現場にいるかのようにイメージが広がりました。質疑応答では様々な分野の専門家の方の意見を聞くことができ、各職種で連携してプロジェクトを行っていくことの大切さを知ることができました。（看護学生）



第1回勉強会講師のバシリサさん（左）と公文さん

◆スタディツアー

2017年9月9日～17日 8泊9日

【訪問場所】タンザニア・タボラ州 タボラ大司教区

【目的】将来、JOCSのワーカーをはじめ国際保健医療協力活動に携わりたいと考えている人を対象に、JOCSの活動地を訪ね、国際保健医療協力について学び、体験する機会を提供する。

【内容】弓野綾ワーカーが活動する聖アンナ・ミッション病院での視察・活動体験、州立キテテ病院視察、JOCSの元奨学生や聖アンナ・ミッション病院スタッフとの交流会など。



スタディツアー参加者の皆さん

参加者の感想

医療従事者という立場を最大限生かし、かつ現地
のニーズに的確に応えるに今準備すべきことは何な
のか。このツアーは明確な答えを与えてくれました。

必要とされるスキルを日本で身につけ、近い将来タ
ンザニアを含め、途上国の医療に貢献できればと思
います。（医師）

◆国際保健医療協力フィールドセミナー 山谷で人々とともに生きる姿勢を学ぶ

2017年10月4日

【訪問場所】東京都台東区清川・日本堤周辺

【内容】NPO法人の「山友会」と「きぼうのいえ」を訪問し、路上生活者や生活困窮者への医食住の支援や居場所づくり、人間関係のなかで傷ついた自尊感情の回復を支える活動に携わる方々の思いを聞き、活動について学びました。

支援のかたち

使用済み切手運動

JOCSの使用済み切手運動は、1964年の開始以来、「だれでも参加できるボランティア活動」として親しまれ、沖縄から北海道、そして海外からも使用済み切手が寄せられています。

2017年度は、個人・団体を合わせ18,745件の使用済み切手、書き損じハガキ、外国貨幣などのご寄付をいただき、約2,310万円をアジア・アフリカの保健医療協役に役立てることができました。皆様のご支援に感謝いたします。

地区 JOCS

地区 JOCS は、地域の JOCS 会員、教会や YMCA など組織され、JOCS の活動を支えるための自主的な活動を行っています。

仙台 毎月第2土曜日 使用済み切手整理作業
せんだい地球フェスタに出展(9月18日)

足利 第37回足利市民クリスマス(12月9日)

町田 毎月第3水曜日 使用済み切手整理作業
クリスマス茶話会(12月20日)

京都 第39回京都 JOCS チャリティーコンサート
(7月28日)

古本募金

古本による募金活動「きしゃぼん」に、嵯峨野株式会社様のご協力のもと取り組んでいます。2017年度は延べ194名からご支援をいただき、ご寄付の総額は約67万円となりました。古本募金を通して JOCS の活動を初めて知ったという方も多くいらっしゃいます。たくさんのご協力に感謝申し上げます。

古本募金のお申し込み先は以下のとおりです。

<http://kishapon.com/jocs>

電話：0120-29-7000

支援者の声

私たちと JOCS の出会いは、土浦めぐみ教会主任牧師の清野勝男子先生が、インドネシア宣教師時代に JOCS の働きを見て感銘を受けたことが始まりでした。

毎年1月に子どもたちや父母会で JOCS のワーカーの方やスタッフの方々から働きを紹介していただき、2月に「お店屋さん」を実施しています。カリキュラムは、『受けるよりも与えるほうが幸いである』『自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい』の聖書を学び、実践。楽しみながら、まだ会ったこともない隣人のために祈りつつ準備します。折り紙で良く回るコマを作り、ビーズでアクセサリを仕上げ、パンケーキやクッキーを焼いて、本物のお金で家族や教会の方々に買っていただき、売上金を JOCS へお送りしております。このことを通して子どもたちの目が広がっていることを感謝しています。

土浦めぐみ教会付属マナ愛児園 宮崎恵子園長

JOCS は海外支援の草分けとして、ずっと地味な活動を続けていることに敬意を持っています。時代は変わり、今や発展途上国の一部は日本より金持ちになっているようですが、依然として日本からの人的支援はその意義を失っていません。今後もぜひ活動を続けてください。

横浜市の H・S さん

JOCS さんへ

今回切手と外国のコインをお送りします。

私は JOCS の会報誌『みんなで生きる』が大好きです。外国にはこんな人がいるんだ、外国はこうなっているんだと発見の連続です。また、生活が苦しくても、けんめいに生きる姿が本当に「みんなで生きる」だと思いました。そのけんめいに生きる人たちの少しの支えができたらいいなと思って、切手とコインをお送りします。外国の人と JOCS さんに、幸せが届きますように。

使用済み切手・外国コインと同封して送られてきた手紙より

事務ボランティアとして奉仕を始めて1年が過ぎました。この1年間、楽しくできました。私はおもに所定の用紙に未使用の切手を貼る奉仕をしています。郵便別納時に代金として使用されるそうです。

切手の大きさには種々あり、郵便屋さんが見て確認しやすいように切手を貼るには工夫が必要で、考えながら貼っています。切手の新旧も様々で、古いのは1950年代のものもあり、「この切手が販売された時代、自分は何をしていたらだろう」など思い出しながら貼っています。献品された方に感謝しつつ、作業を進めています。

事務局ボランティア Y・K さん

国内活動

関西 JOCS のつどい

◆2017年5月20日 日本キリスト改革派神港教会

弓野綾ワーカー(タンザニア派遣・医師)の活動報告会と関西学院聖歌隊コンサートを開催しました。「タンザニアで出会った涙と笑い」というテーマのもと、約140名がご来場くださいました。

◆2018年2月24日 カトリックセンターサクラファミリア

カトリック宇部教会の片柳弘史神父を講師にお迎えして、「苦しんでいる人を、放ってはおけない～マザー・テレサに学ぶ奉仕の心」を開催しました。また植松功 JOCS 理事によるテゼの歌と祈りのひとときを持ちました。当日は300名を超す方がご来場くださり、共に豊かな時間を持つことができました。



2月に行われた関西 JOCS のつどい

チャリティ映画会

◆2017年10月20日 亀戸文化センター

『母 小林多喜二の母の物語』(監督:山田火砂子、原作:三浦綾子)を上映しました。本編上映前に、JOCS 活動紹介ビデオ『アサンテサーナ タンザニアにまかれた種』を上映し、JOCS への支援を呼びかけました。

来場者のアンケートより

- ・考えることが多くありました。平和の実現とすべての人の人権が大切にされる社会を、これからも求め続けていきたいと思いました。
- ・タンザニアを身近に感じることができました。JOCS の活動に感謝。

講師派遣・教会活動報告会・事務局受け入れ

JOCS では、アジア・アフリカの保健医療の現状や JOCS の活動について学んでいただく機会を提供しています。事務局職員が学校や切手サークルなど各種団体を訪問する講師派遣や、グループの事務局見学受け入れを行っています。

2017年度は教会を訪問して JOCS の活動報告を行うことにも力を入れました。

講師派遣：26回
教会活動報告会：15回
事務局見学：9回

参加した生徒さんの感想

学習の中で、「無関心はいけない」と思いました。日本では体調が悪いと病院に行くことがあたりまえだけど、世界には治療を受けることができない人がたくさんいることを知り、自分に何ができるかを考えました。今の私たちでもできることがあるということを忘れず、切手集めや世界に関心を持つことを続けていきたいです。

皆様のお支えにより、2017年度も海外での保健医療協力事業を遂行するとともに、東日本大震災被災地支援活動を実施できたことを感謝申し上げます。

公益法人の会計について

公益法人には、「貸借対照表」と「正味財産増減計算書」の作成が義務付けられています。「貸借対照表」とは、年度末時点での法人の資産、負債、正味財産の有高を示すものです。正

味財産とは、資産から負債を引いた金額です。「正味財産計算書」とは、活動の結果、正味財産が1年間でどれだけ増えたのか、もしくは減ったのかを、その原因(収益、費用)とともに表したものです。

JOCSの財務状況

会員数は、JOCS創立当初からご支援くださっていた方々がお亡くなりになったこと、教会のグループの方々を実態にあわせて個人会員から団体会員に登録変更したことにより、355名減りました。一方寄付金は、お亡くなりになった会員の方の遺言によるご寄付、ご遺族からのご寄付などが多額であったことから、879万円増加しました。長年の赤字決算からようやく抜け出し黒字となったことを、共に歩んで支え続けてくださった支援者の皆様と、お亡くなりになった会

員のご遺志を実現して下さったご家族の皆様から心から感謝申し上げます。

2018年度は、高齢になって退会される方の人数を上回る新規会員を募集するため、広報に力を入れてまいります。教会などでJOCSワーカーや職員による活動紹介の機会を設けてくださる方は、ぜひ事務局までご連絡ください。なお、ホームページ上ではより詳しい会計報告の内容をご覧いただけます。

貸借対照表 2018年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
1	流動資産	1	流動負債
	現金預金	2	固定負債
	貯蔵品		負債合計
	前払金		正味財産の部
2	固定資産	1	指定正味財産
	特定資産	2	一般正味財産
	その他固定資産		正味財産合計
	資産合計		負債及び正味財産合計

東日本大震災復興支援指定寄付

寄付総額: 23,264,147円

(単位:円)

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
70,000	12,153,111	6,088,125	4,828,599	112,892	11,420

2017年度末までに使用した金額の内訳は、以下のとおりです。

(単位:円)

活動地	2011年度～2016年度	2017年度	合計
岩手県釜石市	9,835,904	839,623	10,675,527
福島県いわき市	2,156,045	0	2,156,045
福島県内児童養護施設	7,361,745	526,608	7,888,353
宮城県仙台市	2,774,360	0	2,774,360
その他(共通費用)	357,820	0	357,820
合計	22,485,874	1,366,231	23,852,105

不足分の587,958円は、災害救援復興資金から充当しました。

クラウドファンディング収支報告

ケニア・シロアムプロジェクトの理学療法士育成のために、2017年9月1日から31日までクラウドファンディングでご支援を募り、目標額500,000円を上回る564,000円のご寄付をいただきました。クラウドファンディング・サービスを提供するReady for

株式会社への手数料103,550円を除いた460,450円のうち、325,702円を山内章子ワーカー(バングラデシユ派遣・理学療法士)のケニア派遣・活動費として、134,748円をシロアムプロジェクトの活動費として使用しました。

正味財産増減計算書 2017年4月1日から2018年3月31日まで(単位:円) △はマイナスを表す

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	海外保健医療協力事業		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	715,524	2,139	717,663
② 受取会費	13,672,219	13,672,219	27,344,438
③ 事業収益(使用済切手収益等)	24,378,198	0	24,378,198
④ 受取補助金等	171,027	0	171,027
⑤ 受取寄付金	80,461,859	7,837,419	88,299,278
⑥ 雑収益	214,093	0	214,093
経常収益計	119,612,920	21,511,777	141,124,697
(2) 経常費用			
① 事業費	124,763,674	0	124,763,674
海外派遣費	21,362,169	0	21,362,169
海外交流費	0	0	0
奨学金	7,873,619	0	7,873,619
協働プロジェクト費	3,133,970	0	3,133,970
海外出張費	1,646,636	0	1,646,636
国内活動費	13,089,097	0	13,089,097
災害救援復興	1,366,231	0	1,366,231
研究活動費	191,737	0	191,737
会議費	162,617	0	162,617
募金・寄付経費	3,314,203	0	3,314,203
人件費	52,467,710	0	52,467,710
賞与引当金繰入額	3,773,794	0	3,773,794
退職給付費用	3,774,400	0	3,774,400
事務所費	6,471,836	0	6,471,836
減価償却費	1,786,094	0	1,786,094
事務用品費	1,939,511	0	1,939,511
通信費	1,604,222	0	1,604,222
支払手数料	12,214	0	12,214
旅費交通費	446,114	0	446,114
諸費(租税公課等)	347,500	0	347,500
② 管理費	0	23,757,051	23,757,051
人件費	0	13,116,909	13,116,909
賞与引当金繰入額	0	943,448	943,448
退職給付費用	0	673,600	673,600
事務所費	0	1,617,956	1,617,956
減価償却費	0	446,523	446,523
事務用品費	0	484,859	484,859
会議費	0	1,911,729	1,911,729
通信費	0	401,033	401,033
保険料	0	194,930	194,930
支払手数料	0	3,854,539	3,854,539
旅費交通費	0	111,525	111,525
経常費用計	124,763,674	23,757,051	148,520,725
当期経常増減額	△ 5,150,754	△ 2,245,274	△ 7,396,028
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用(固定資産除却損)	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 5,150,754	△ 2,245,274	△ 7,396,028
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 5,150,754	△ 2,245,274	△ 7,396,028
一般正味財産期首残高	492,983,430	33,719,410	526,702,840
一般正味財産期末残高	487,832,676	31,474,136	519,306,812
II 指定正味財産増減の部			
① 受取指定寄付金	26,887,000	0	26,887,000
② 一般正味財産への振替額	△ 9,181,699	0	△ 9,181,699
当期指定正味財産増減額	17,705,301	0	17,705,301
指定正味財産期首残高	43,799,740	0	43,799,740
一般正味財産期末残高	61,505,041	0	61,505,041
III 正味財産期末残高	549,337,717	31,474,136	580,811,853

ぜひ会員となって JOCS の活動を継続的にお支えください

一般会員

JOCS の活動を支える会員。総会の議決権や理事の選挙権、被選挙権はありません。

(一般会費: 年 5,000 円以上の任意の額、18 歳未満の方は年 2,000 円以上の任意の額)

社員会員

JOCS を構成する会員。総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権をもちます。

(社員会費: 年 10,000 円以上の任意の額)

口座振替

月々 1,000 円から。申込書が必要になります。東京事務局へお申し出ください。または JOCS ホームページ (<http://www.jocs.or.jp/support/member>) からダウンロードしてください。

クレジットカード

月々 500 円から。ホームページ (<http://www.jocs.or.jp>) からお申し込みください。

ご寄付は随時受け付けています

郵便振替

ゆうちょ銀行 (口座: 日本キリスト教海外医療協力会 募金部 00170-3-13986)

- *当会へのご寄付、一般会員の会費は特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。領収証は、毎年 1 月から 12 月までの会費・ご寄付の合計額をまとめ、翌年 1 月下旬に送付いたします。
- *当会へのご寄付・会費は、8 割が事業費、2 割が管理費として使われます。
- *会員と年間 1 万円以上の寄付をしてくださった方には、会報誌『みんなで生きる』を送付いたします。

■ JOCS 会員数

3,661 名 (うち社員会員 322 人) 2018 年 3 月 31 日現在

■ JOCS 役員 (五十音順)

会長 畑野研太郎 (医師)

常務理事 大友 宣 (医師)

理事 植松 功 (自営) 小宅泰郎 (医師) 久保礼子 (言語聴覚士) 土居弘幸 (大学教員) 名取智子 (JOCS 事務局次長)
榛木恵子 (団体役員) 東岡 牧 (看護師) 森田 隆 (JOCS 事務局長)

監事 倉辻忠俊 (医師) 渡部芳彦 (歯科医師、大学教員)



公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

東京事務局 (月~金 9:00~17:00、土日祝休み)

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田 2-3-18-51

電話: 03-3208-2416 FAX: 03-3232-6922

使用済み切手に関するお問い合わせ

電話: 03-3208-2418

関西事務局 (月~金・第 4 土曜日 9:30~17:30 第 4 土曜日を除く土日祝休み)

〒530-0013

大阪府大阪市北区茶屋町 2-30 大阪聖パウロ教会 3 階

電話: 06-6359-7277 FAX: 06-6359-7278

<http://www.jocs.or.jp>

E-mail: info@jocs.or.jp



Accountability
Self-Check 2012

これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウントアビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。